

# きよくり news

## CONTENTS

- ・年頭のご挨拶
- ・シェルターシンポジウム  
に参加して
- ・私のオフタイム  
～2人息子と一人のコーヒータイト～



Muraguchi Kiyomuraguchi Women's Clinic



## 新年あけましておめでとうございます

## 本年もどうぞよろしく願いたします

昨年の東日本大震災から10ヶ月目、新しい年を迎えました。被災された方々に心から哀悼の意を捧げたいと思います。復興への道のりは果てなく、いまだ先が見えてきませんが、これまで人々の善意・勇気・声援・・たくさんの感動をいただきました。「昨年の漢字」が「絆」となり、「日本・無縁社会」への警告も杞憂と化す？そんな期待がよ

ぎるほど、日本人の底力・英知・良識が蘇ってきたかに思えました。

震災後まもなくして、NPO「女性の安全と健康のための支援教育センター」から緊急避妊ピルが届きました。「被災地でのレイプ被害などのため、緊急避妊ピルを必要とする方に渡してください」とのことでした。しかしいまだ手付かずのままです。阪神淡路大震災のときはたくさんの性被害があったと報告されました。その教訓から、今回はその対応はとて迅速でした。当初今回の大震災では規模が桁違い、一面瓦礫の町と化し、根こそぎ・広範囲だった、警察・自衛隊がたくさん入り、性被害どころではないといわれました。しかし、震災直後の混乱・ショック、一時の高揚期が過ぎ、少し落ち着きを取り戻し始めた頃から、性被害の報告が少しずつ届くようになりました。これからこそがまさに正念場です。DV、セクハラ、レイプが増えてくると警告されています。

昨年、クリニックを受診された患者さんの背景にある性被害の状況を調査しました。3年間でレイプ6件、デートレイプ21件でした。決して少なくない結果に驚きました。初診時の問診で、DVチェックを開始しました。①あなたはパートナー(夫・恋人・男友達)との関係で悩んでいることがありますか、②今までにパートナーによって心が傷ついたり、体に暴力を受けたことがありますか、③過去1年間で自分の意思でないのにセックスをしたことがありますか、④パートナーを怖いと思ったことがありますか、これら4項目のいずれかにチェックされた方は、17.4%でした。性暴力被害のリスクは意外に身近なところに迫っているかも知れません。一人ひとりの患者さんに適切な対応・支援ができるよう、今年も気を引き締めていかなければと思います。

昨年11月、仙台で第14回全国シェルターシンポジウム「震災を乗り越えてWake Up人権！」が開催されました。初めて参加しました。日本社会を再生しようと頑張っている人たちがたくさんいる、しかもほとんどボランティアで、熱い思い・すごいエネルギーに感動しました。日本の新たな姿、未来が見えてくるようでした。

2001年DV防止法ができ、2007年改正され、法整備も進み、一般への認識も進んできました。一方、性犯罪被害に対応した法律はいまだありません。今後を期待したいと思います。

今年も精一杯頑張っていきたいと思います。皆様のご支援・ご鞭撻のほどよろしく願いたします。

院長 村口 喜代

## Wake Up 人権！ ～暴力の連鎖を断ちきる～

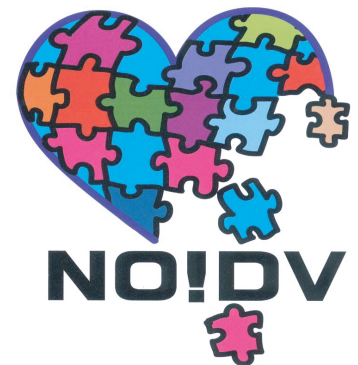
第 14 回全国シェルターシンポジウムに参加して

看護師主任 竹田理恵

東日本大震災から 8 カ月が経過した仙台に於いて、11 月 19、20 の 2 日間、第 14 回全国シェルターシンポジウムが開催されました。震災後のこの状況にも関わらず、全国各地から、そして地元みやぎから、たくさんの参加があり、大会は大盛況でした（初日 850 名、2 日目 650 名、のべ参加者 1500 名）。医療や法律の専門家やボランティア活動家、そして当事者の声なども聞かれ、現場で活躍している方々のお話はとてもエネルギーで説得力がありました。

私が強烈な印象を受けたのは、性暴力救援センター大阪（通称 SACHICO:Sexual Assault Crisis Healing Intervention Center Osaka）の代表であり阪南中央病院産婦人科医師でもある加藤治子さんの講演です。加藤さんは、「女性の一生を生活背景も含めて診ることのできる診療科」を目指し、医療の場でDVやレイプの被害者と接し常に第一線で活動してきました。そして 2010 年 4 月阪南中央病院内に、日本で初めてのワンストップセンター SACHICO を開設しました。そこには、産婦人科医療だけでなく精神科医療、カウンセリング、法律相談などそれぞれの現場で性暴力に遭った女性に関わってきた専門家たちと、女性支援に携わってきた草の根活動家たちが結集しており、そのネットワークにより被害女性が総合的に支援を受けられるようなシステムができています。阪南中央病院は、もともと同和対策事業で作られた病院で、病院全体として人権意識が高く、社会的弱者と言われる人々への医療についても実績を積んできた病院だそうです。加藤さんは、「そのような病院だからこそ協力を得られ、SACHICO の開設が実現できた。しかし活動の継続にはかなりの費用がかかり、今は病院からの援助と寄付、そして支援員たちのボランティア精神や寄付で持ちこたえており、今後はどうしても公的支援が必要である」と強調されていました。この活動は、他の都道府県で同じようなシステムを立ち上げる際の足がかりという意味でも、大きな役割を持っていると期待しており、その継続のためには何より公的支援の実現が急がれます。

クリニックにも、DVやレイプの相談でやってくる女性は少なくなく、妊娠した状態で来院する女性もおり、状況は深刻です。限られた時間の中でできる支援の限界を感じたり、そこからつなげていける社会資源が見つからなかったりと、医療現場では歯がゆい思いをすることがたくさんあります。しかし今回、信念を持った活動家たちの情熱と努力で少しずつ女性支援の力は広がっていることを肌で感じることができました。今後ますます支援の輪が充実してくることを期待してやみません。



## 私のオフタイム ～「2人息子」と「一人のコーヒータイム」～

看護師 小林美和子

私には2人の息子がおり、先日下の息子が2歳になりました。上の子は小学3年生で、2人とも男の子なのでいつもにぎやかです。平日、仕事が終わりに家に着く頃には、子供達は寝る時間です。週末に子供達と遊んだり、お風呂に入るのがとても楽しみです（ゆっくりは入れませんが…）。

寒くなってからの楽しみは、寝る前に1人でゆっくりコーヒーを味わうことです。最近のお気に入り、ミストのポイントで交換したカップです。飲み口が厚くなっていて、なかなか飲みやすいのです。それから Walkers のショートブレッド。これがまた、うまい！いけない・・・と思いながら食べてしまうのです。（^-^）ウフフ…



## 編集後記

新年明けました。今年はどうな一年になるでしょう。  
みなさまにとって、幸多き毎日となりますように ☺

## 【臨時休診】

現在、臨時休診の予定はございません。

発行元：村口きよ女性クリニック  
http://www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp  
e-mail:con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp

